

支えてくれている 方々への感謝の心

「ありがとうございます。」

「おはようございます。」

私の一日は、見守り隊の方の挨拶で始まります。学校に行きたくないなと思っていても、この挨拶を聞くと、「よし、今日も一日頑張ろう」と明るい気持ちになります。見守り隊とは、私たちが安全に登下校できるよう見守ってくださるボランティアの方々です。私は小学校三年生の時、始良市に引っ越してきました。家から学校へは、歩いて四十分とこれまでよりはるかに遠く、慣れないもので、知らない人も多く、不安な気持ちでいっぱいでした。けれど、見守り隊の方が数日もたたないうちに名前を覚えて、

「めいちゃん、おはよう。今日もいい天気だね。気を付けて行ってらっしゃい。」

と明るい言葉をかけてくださいました。名前を呼んでもらって、安心して学校にも慣れていきました。そして、元気を出して学校に行くことができました。以前いた町よりも多くの方々が見守り隊として、私たちのことを見守ってくださっていることに驚いたのを覚えています。

学校に通い始めて一週間ほどが経ったある日、私は母から

「新しい学校はどう？」

と聞かれました。私は、新しい学級のこと、新しい先生のこと、そして、毎日登下校中に声をかけてくれる見守り隊の方の話をしました。すると母は、

「へえー、そんな人がいるんだ。有り難いね。今度通りかかったらお礼言わなくちゃ。」

私は、その母の言葉にハッとさせられました。新しい学校に通い始めて一週間も経つのに、毎日見守って声をかけてくださっている見守り隊の方々に、私はお礼の一つも伝えていませんでした。

「今度会ったら、私も直接お礼を伝えよう。」私はそう決意しました。

「おはようございます。」

次の日の朝も、見守り隊の方々の元気の良い挨拶で始まりました。「おはようございます…。」私はその言葉だけを伝え、足早にその場を後にしました。「あれ、お礼を伝えるはずだったのに…。」私は上手く感謝の気持ちを伝えることができませんでした。それから来る日も来る日も、見守り隊の方は変わらず元気に挨拶をしてくださいますが、私は挨拶を返すだけでした。自分でもなぜ言えないのか分からず、モヤモヤとした日々が続きました。

そんなある日、私はふと以前通っていた学校を離れる際にもらった寄せ書きを目にしました。そこには、私に対する応援や私に対する感謝の言葉がたくさんつづられていました。その寄せ書きを読み、私は懐かしく、温かい気持ちになりました。「感謝の言葉をかけてもらうのって、こんなにもうれいものなんだ…。」そんな気持ちと同時に、私の頭の中には見守り隊の方々顔が浮かんでいました。「やっぱりちゃんと伝えないとダメだ！」

私は今日、見守り隊の方へ感謝の気持ちを伝えたくて、このスピーチをしています。

私たちが安心安全に登下校できるようにと見守っていてくださっている方々に、明日はいつも以上に明るく元気な笑顔で、こう伝えたいです。

「おはようございます。今日もありがとうございます。」

